

肝炎対策推進議員連盟 第8回総会資料

平成30年8月28日

厚生労働省健康局がん・疾病対策課肝炎対策推進室

平成31年度 肝炎対策予算概算要求の概要①

平成31年度予算概算要求 調整中 (平成30年度予算額 168億円)

基本的な考え方

「肝炎対策基本指針」に基づき、肝硬変・肝がんへの移行者を減らすことを目標として、肝炎医療、肝炎ウイルス検査、普及啓発、研究などの「肝炎総合対策」を推進する。

1. 肝疾患治療の促進

調整中 (83億円)

○ウイルス性肝炎に係る医療の推進

- ・ B型肝炎・C型肝炎のインターフェロン治療、インターフェロンフリー治療及び核酸アナログ製剤治療に係る患者の自己負担を軽減し、適切な医療の確保と受療の促進を図る。

○肝がん・重度肝硬変の治療研究の促進及び肝がん・重度肝硬変患者への支援

- ・ 肝炎ウイルスによる肝がん・重度肝硬変の特徴を踏まえ、患者の医療費の負担軽減を図りつつ、肝がん・重度肝硬変治療にかかるガイドラインの作成など、肝がん・重度肝硬変の治療研究を促進するための支援を実施する。

2. 肝炎ウイルス検査と重症化予防の推進

調整中 (40億円)

- ・ 利便性に配慮した肝炎ウイルス検査体制を確保し、相談や職域の健康診断における啓発の実施などにより、肝炎ウイルス検査の受検を促進する。
また、市町村での健康増進事業において、肝炎ウイルス検査の個別勧奨を実施する。
- ・ 肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨を行うとともに、初回精密検査や定期検査費用に対する助成を行う。また、新たに、職域のウイルス検査を受けた者に対する初回精密検査について助成を行い、肝炎患者の早期治療を促進し、重症化の予防を図る。

平成31年度 肝炎対策予算概算要求の概要②

3. 地域における肝疾患診療連携体制の強化

調整中（6億円）

○地域における肝疾患診療連携体制の強化

- ・ 都道府県等への助成により、都道府県と肝疾患診療連携拠点病院を中心とした関係機関の連携を強化するとともに、医療従事者や肝炎医療コーディネーター等の人材育成、肝炎患者等への治療や生活の相談支援等を行い、肝疾患診療連携体制の強化を図る。

○肝炎情報センターによる支援機能の戦略的強化

- ・ 国立国際医療センター肝炎情報センターによる肝疾患診療連携拠点病院への支援機能を強化して、地域の肝疾患医療や患者等の支援の向上を図る。
- ・ 肝疾患診療連携拠点病院の相談員等が、肝炎患者からの相談に対する補助ツールとして活用することができる相談支援システムの運用等を行う。

4. 国民に対する正しい知識の普及

調整中（2億円）

○肝炎総合対策推進国民運動（知って、肝炎プロジェクト）による普及啓発の推進

- ・ 都道府県等や民間企業と連携した多種多様な媒体を活用した効果的な情報発信を通じ、肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性などをわかりやすく伝える啓発事業を展開する。

5. 研究の推進

調整中（37億円）

- ・ 「肝炎研究10カ年戦略」を踏まえ、B型肝炎の画期的な新規治療薬の開発や肝硬変の病態解明と新規治療法の開発等を目指した実用化研究と、肝炎対策を総合的に推進するための基盤となる行政的な課題を解決するための政策研究を推進する。特にB型肝炎の新たな治療法の開発やC型肝炎治療の予後改善等の研究を開始する。

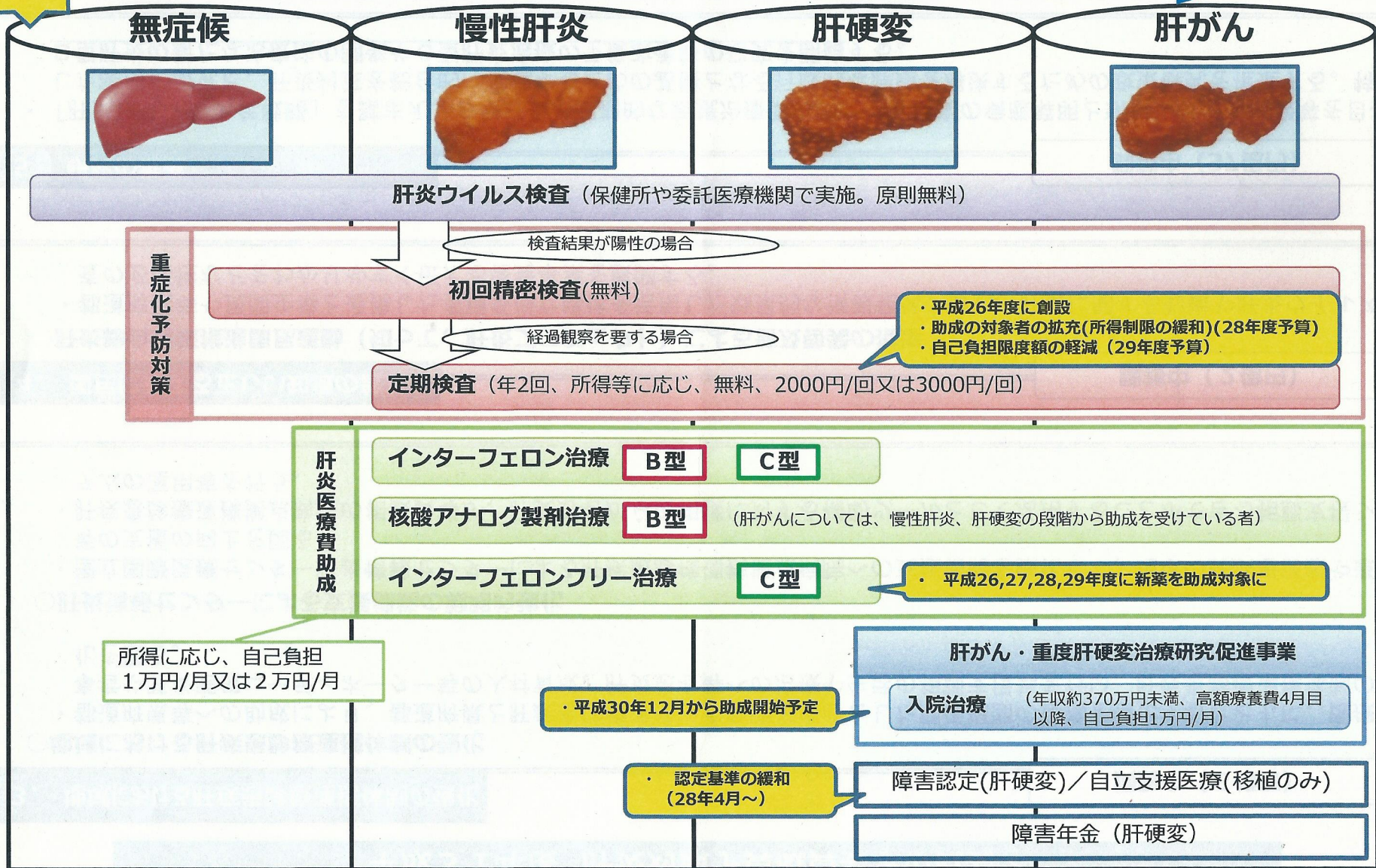
（参考）B型肝炎訴訟の給付金などの支給

調整中（572億円）

肝炎の進行と対策のイメージ

感染

10~40年



肝がん・重度肝硬変研究の促進及び肝がん・重度肝硬変患者への支援

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業

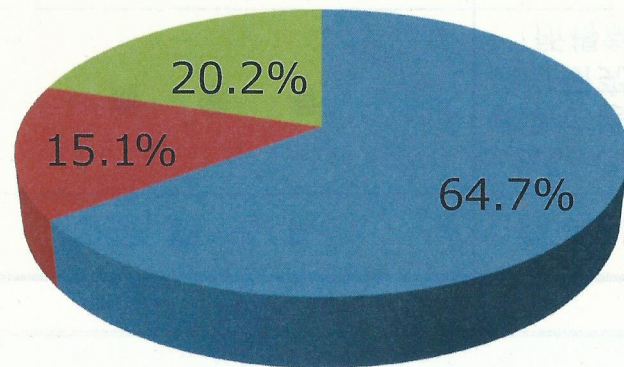
平成30年度予算額 10億円

B型・C型肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者の特徴を踏まえ、患者の医療費の負担の軽減を図りつつ、患者からの臨床データを収集し、肝がん・重度肝硬変の予後の改善や生活の質の向上、肝がんの再発の抑制などを目指した、肝がん・重度肝硬変治療にかかるガイドラインの作成など、肝がん・重度肝硬変の治療研究を促進するための支援を実施。

| | |
|--------|--|
| 実施主体 | 都道府県 |
| 対象者 | B型・C型肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変に関する医療保険各法又は高齢者の医療確保に関する法律の医療に関する給付を受けている者で、臨床調査個人票及び研究への同意書を提出した者 (所得制限: 年収約370万円未満を対象) |
| 対象医療 | 肝がん・重度肝硬変の入院医療とし、過去1年間で高額療養費の限度額を超えた月が既に3月以上の場合に、4月目以降に高額療養費の限度額を超えた月に係る医療費に対し、公費負担を行う。 |
| 自己負担月額 | 1万円 |
| 財源負担 | 国 1/2 地方 1/2 |

肝がんの多くは、B型・C型肝炎ウイルスへの感染を原因とし、再発率は70～80%程度に及んでいる。

肝がんの原因の内訳 ⇒ **約8割はB型、C型肝炎ウイルスが原因**



- C型肝炎ウイルス
- B型肝炎ウイルス
- その他 (アルコール性、非アルコール性脂肪性肝炎など)

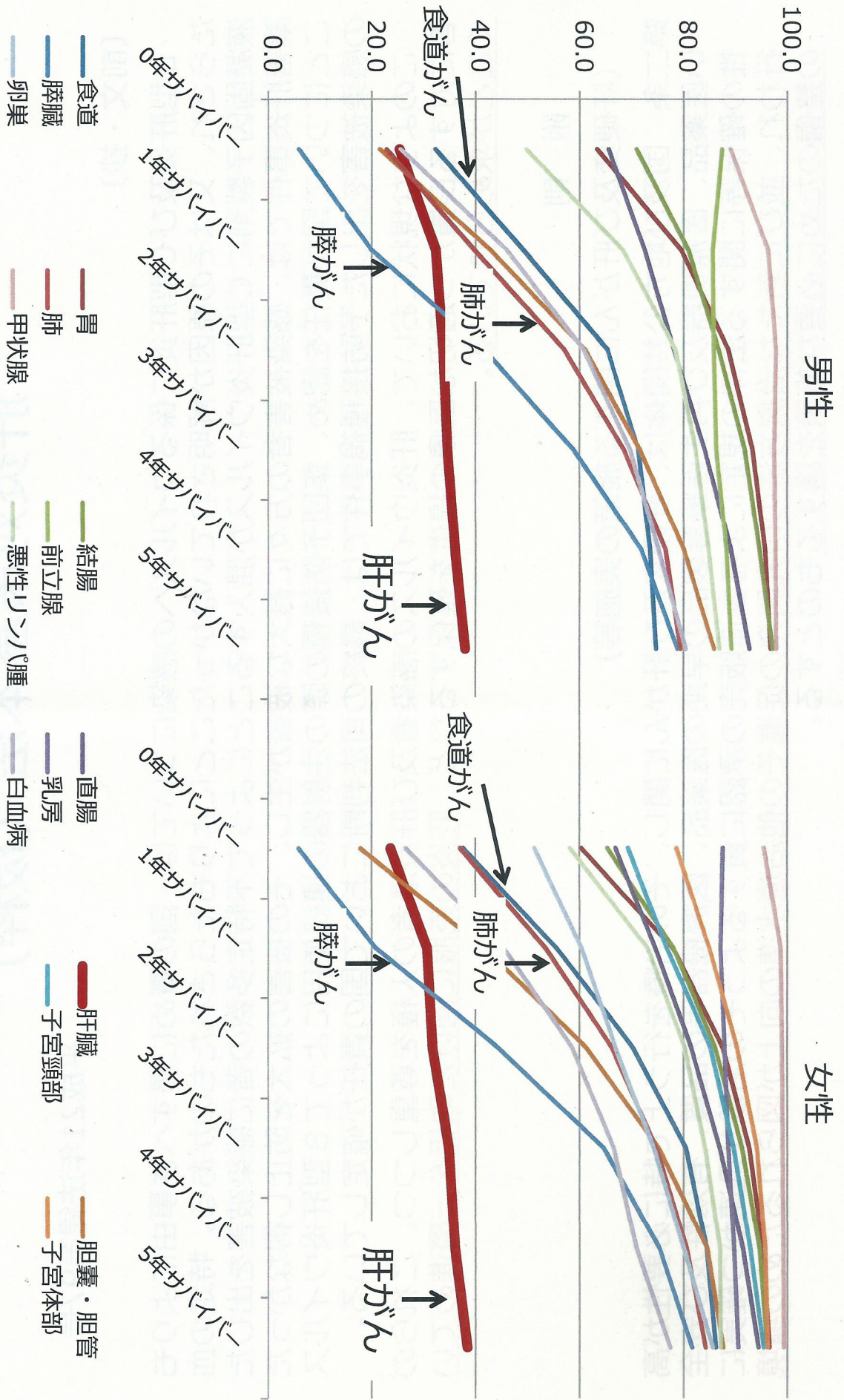
第19回全国原発性肝癌追跡調査報告 (2006-2007年)

肝がんの再発率 ⇒ **5年以内の再発率は70～80%**

肝細胞癌の肝切除後の再発率は年率10%以上で5年後には70～80%に達する。また、穿刺局所療法後、超音波検査とdynamic CTを4カ月間隔で行った報告 (LF11906 Level 4) では、肝細胞癌累積再発率は1年18.6%、5年72.0%である。

肝癌診療ガイドライン日本語版 (2013年版) 一般社団法人日本肝臓学会

診断から5年後に生存している者のその後の5年生存率（5年サバイバー生存率）は、他の主ながんが7～9割以上である一方、肝がんは4割未満



国立がん研究センターがん情報サービス地域がん登録によるがん生存率データを基に肝炎対策推進室が作成